

— 農林事務所管内の動き —

1 福岡農林事務所管内

■ 農業

- ・福岡市早良区内野地区は、地域農業の持続的発展のため、令和4年2月に農業者と地域住民による「内野地区中山間地域振興協議会」を発足。「中山間地域活力創出推進事業」を活用し、都市住民との交流を軸として、半農半Xの実践者を増やし、移住・定住を促進。
- ・糸島地区的住宅周辺の農地では銃猟が困難なため、麦やキャベツを中心に、カモの被害が増加。このため、農地近隣の河川にテグスを張って、近隣ほ場へのカモの侵入を抑制する試験を実施、被害が大幅に減少することを実証。鳥獣対策の新たな技術として期待。
- ・JA糸島は、スマート農業を普及させるため、高い精度の位置情報をスマート農業機械が取得するために必要なRTK^{*}基地局を2年度に整備。これにより、3年度はロボットトラクタをはじめとしたスマート農業機械の導入が進み、水田農業におけるスマート農業が着実に普及。
- ・県、市、JA、生産者が一体となって新規就農希望者をサポートする「むなかた地域新規就農研修」の修了生である松川原進吾氏は、就農1年目でJAむなかたいちご部会でトップの単収(5.6t/10a)を確保。いちご農家で研修のトレーナーを務めた力丸剛氏は、「研修で伝えた適期作業をしっかりとできていた」と高く評価。
- ・糸島市芥屋地区では、WCS栽培の課題である地力低下対策に向け、畜産農家や耕種農家、関係機関が協議。この結果、畜産農家は、たい肥と併せて、たい肥の散布に必要な機械を耕種農家に提供し、耕種農家は、WCS収穫後、ほ場約20haにたい肥を投入して地力を向上させるといった耕畜連携の取組を実現。
- ・福岡市能古島では、甘夏産地振興のため、若手農業者グループと関係機関が連携して園地流動化に取り組み、新たに1.5haを担い手へ集積。また、クラウドファンディングで集めた資金で25aの耕作放棄地に甘夏を植栽。支援者への返礼として能古島産甘夏や加工品を送付するとともに、SNSでグループの活動や能古島産甘夏の情報を発信。

^{*}RTK : Real Time Kinematic の略。地上に設置した「基準局」からの位置情報データによって、高い精度の測位を実現する技術。

地域のトピック

○ 台湾向け「あまおう」輸出を牽引する若き農業者

- ・JA柏屋いちご部会は、台湾向けに継続的にいちごを輸出している県下唯一の産地。
- ・同部会の安武浩輝氏は、残留農薬検査が厳しい台湾に安定した輸出ができるよう、化学農薬に頼らない様々な防除技術の検証や導入を積極的に実施。
- ・令和3年度福岡県青年農業者会議で、部会全体での輸出に対する取組が高く評価され、最高位の優秀賞(福岡県知事賞)を受賞。



台湾総領事(左)、田辺古賀市長(中)に
栽培状況を説明する安武氏(右)

■ 林業

- ・森林・林業分野で活用が本格化しているドローンの有効活用に向けて、森林組合を対象に研修会を開催し、17人が参加。関係法令や活用事例に関する基礎知識を学ぶとともに、安全な飛行技術の習得を目的とした実機操作演習を実施。
- ・森林クラウドGIS^{*}に対応した森林経営計画作成支援システムが新たに開発され、令和3年度から運用を開始。森林経営計画制度を適切かつ効率的に推進するため、管内の市町、森林組合を対象に実践的な操作研修会を開催し、17人が参加。
- ・松くい虫の被害により保安林としての機能が低下した海岸松林を対象に、保安林整備事業を活用し、松くい虫抵抗性クロマツ約9千本を植栽。併せて、海風から植栽木を守る木製防風柵を施工し、防風機能や飛砂防止機能の回復を促進。
- ・筑紫野市萩原地区の治山工事現場で、3年8月に地元子ども会を対象とした環境学習会を開催し、20人が参加。保安林や治山施設の働きについて学んだ後、全員ヘルメットを装着してコンクリート打設の様子を見学。
- ・8月の大河災害により、第3雷山浮嶽線をはじめ、福岡市、糸島市、那珂川市、篠栗町、須恵町で14路線、22か所の林道が被災。3年度中に18か所の復旧工事に着手し、5か所の工事が完了。残りの箇所も早期に着手し、4年中の完成を目指す。

*森林クラウドGIS:森林資源情報や事業台帳をネットワークを経由して一元的に管理・共有するシステム。

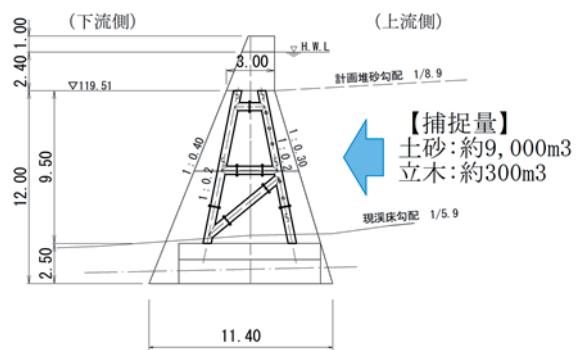
地域のトピック

○ 鋼製スリットダムにより大野城市の防災・減災を推進

- ・近年頻発する大雨災害に備えるため、平成30年度の着工から4年の歳月をかけて、大野城市乙金地区に鋼製スリットダム（延長70.5m、堤高12.0m、鋼材重量25.11t）が完成。
- ・施工地は一般住宅のほか、大城小学校、県自治研修センター、大野城総合公園といった多くの人が集まる公共施設の上流に位置しており、防災・減災に期待。



鋼製スリットダム（上流側より下流を望む）



鋼製スリットダム側面図

2 朝倉農林事務所管内

■ 農業

- ・令和3年8月大雨で被災した農業者の経営継続のため、久留米市をはじめ2市1町で533件、総事業費4億円の農業機械・施設災害復旧支援事業を実施。
- ・JA筑前あさくらは、強い農業・担い手づくり総合支援交付金を活用し、アスパラガスとイチゴの選果拠点となる中央パッケージセンターを3年度に整備。これにより、機械による作業の効率化や作業環境の向上が図られ、両品目とも処理能力は従来の2倍に拡大。パッケージセンターの利用により、平成29年7月九州北部豪雨からの営農再開、新規就農者確保、規模拡大の加速化が期待。
- ・うきは市の「つづら棚田」と東峰村の「竹」の棚田が農林水産省の「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～*」に選定。保全活動や地域振興の取組が高く評価。
- ・東峰村農林業振興協議会は、農林水産物や加工品の販売促進を支援するため、「小さな宝」認定制度を開始。3年度は「東峰村しいたけカレー」や「岩屋湧水ヤマメ缶詰」といった20種類の特産物を認定。特産物のブランド化で東峰村の魅力を発信。
- ・JA筑前あさくらは、平成29年7月九州北部豪雨で被災した農業者を支援するため、ハウスを整備し、被災した農業者にアスパラガスの生産管理を委託する取組を実施中。このうち、被災後、JAからアスパラガスの生産管理を委託されていた農業者2人が、3年目を迎える4年1月、JAより正式にハウスの経営移譲を受けてアスパラガスの栽培を開始。今後は、被災農家の営農再開モデルとして期待。
- ・JAにじブドウ部会は、市場ニーズに対応するため、「シャインマスカット」をはじめとした収益性の高い種なしブドウの栽培を拡大。併せて、栽培技術の高度化も進め単価が向上。
- ・宝満川の「津古堰^{つこせき}」は、築造から半世紀が経過し老朽化が著しいため、改修工事を行い、3年5月に完了。小郡市208.4haの農地へ安定的に農業用水を供給するとともに、洪水被害の軽減を図る。

*つなぐ棚田遺産：棚田地域の活性化や、棚田の有する多面的な機能に対する国民の一層の理解促進を目的として国が優良な棚田を選定するもので、全国で271の棚田を選定。

地域のトピック

○ 平成29年7月九州北部豪雨で被災した山の神ため池が復旧工事完了

- ・平成29年7月九州北部豪雨で被災した朝倉市の6つのため池（鎌塚、山の神、三反田、辰ヶ迫、上池田、上須川）は、規模が大きく、復旧に高い技術を要するため、県が代行により工事を実施。
- ・このうち、堤体部が大きく破損した「山の神ため池」は、堤体、取水施設、洪水吐の全面改修を行い、令和3年5月に完了。
- ・これにより、県が代行したため池の復旧工事が全て完了。



被災直後



復旧工事完了

■ 林業

- ・筑前町有林及び隣接する「夜須高原記念の森」において、令和3年度福岡県伐倒技能選手権を開催。県内の林業事業体から 12 チームが参加し、チェンソーの技能の精度を競技。地元の朝倉農林管内からは、5 チームが参加。うち2チームが「伐倒競技の部」、「合せ切り競技の部」それぞれで優秀賞を獲得する活躍。
- ・東峰村において、「根をはって 古里守る 樹木たち」をテーマに、第72回福岡県植樹祭を開催。式典では、「緑化功労者」と「第7回福岡県木造・木質化建築賞」を表彰し、東峰学園児童生徒が「みどりの誓い」を披露。記念植樹では、次世代への継承を願う縁起木「ユズリハ」他5樹種を植栽。
- ・「第8回福岡県木造・木質化建築賞」において、管内のオフィスが「木造の部」、幼稚園が「木質化の部」で大賞を受賞。木のぬくもりや柔らかさといった、木材の良さを存分に活かした建築物として高く評価。
- ・平成 29 年 7 月九州北部豪雨で被災した林地の復旧は、県が災害関連等緊急治山事業により施工した 39 か所の全てで、3 年 11 月までに完了。また、再度の災害を防止するために 30 年度から着手した治山激甚災害対策特別緊急事業による 51 か所についても、34 か所が完成。残りの箇所についても早期完成を目指す。

地域のトピック

○ うきは市では未利用材の活用に向けた動きが本格化

- ・うきは木質バイオマス協議会は、自伐林家が会員である「うきは市林業研究グループ」のほか、「浮羽森林組合」、「グリーンパーク N & M 株式会社」の 3 者で構成。
- ・同協議会は、令和 2 年度に、自伐林家による間伐実施体制の構築を目的とした荒廃森林整備事業を活用し、未利用材の活用促進に向けた集出荷場（土場の舗装及びトラックスケールの設置）を整備。
- ・また、3 年度には、林業研究グループが、同事業を活用し、集材・仕分けに使用するグラップル付きバックホウを導入。
- ・これらの取組の結果、3 年度は、400t を超える未利用材を集材・出荷。
- ・今後は、未利用材活用の地域拠点としての発展を期待。



設置されたトラックスケール



グラップル付きバックホウ

3 八幡農林事務所管内

■ 農業

- ・北九州市若松区では、若松潮風®ブランドの第二弾として、大玉スイカを「若松潮風®プレミアム」として初出荷。「若松潮風®プレミアム」は、有機質主体の土づくりにこだわった肥沃なほ場で栽培し、濃厚な甘さになるまで完熟させ、朝採りで収穫することが特徴。
- ・令和3年度福岡県6次化商品コンクールにおいて、株式会社芳野商店（北九州市）の「福岡ふくよか納豆」が最高位の県知事賞を受賞。地元の大豆を使った納豆で「大豆の味がしっかりと活かされている」、「国産大豆の納豆が少ない中で、県産で作れるのは素晴らしい」と高評価。また、遠賀屋 糊こめのはな（遠賀町）の「遠賀べいめん（冷凍米粉めん茹で）」が福岡県商工会連合会会长賞を受賞。遠賀町産米を使用した米粉麺で「グルテンフリーが時代に即している」と高評価。
- ・遠賀町鬼津では、地区農業の維持発展のため、町内で3番目の集落営農法人となる「農事組合法人ONファーム」を設立。農地中間管理事業を利用した農地集積や、税理士による法人経営の助言指導を中心に経営基盤の強化に向けた支援を実施。また、4年2月には、水田農業担い手機械導入支援事業を活用して、自脱型コンバインを導入し、生産コストを低減。
- ・北九州市中央卸売市場では、流通段階の生産性向上を図るため、新たにゴボウの皮むき機や青果物の包装機を導入。従来、手作業で行っていた作業の効率化が進み、従業員の負担が軽減。消費者ニーズを踏まえた青果物加工品の取扱量の増加を目指す。

地域のトピック

○ 石松 守氏（遠賀町）が県麦作共励会（農家の部）において優秀賞を受賞

- ・遠賀町の石松守氏が令和3年度福岡県麦作共励会（農家の部）において、優秀賞（県知事賞）を受賞。
- ・石松氏は、米・麦・大豆を主体に経営。麦栽培では、本暗渠の疎水材※に軽石を使用した排水対策のほか、土壤改良資材の散布や難防除雑草の早期抜き取りといった基本技術を忠実に実践。
- ・大麦で管内JA平均収量の1.5倍、小麦では1.3倍の収量を実現。

※疎水材：暗渠の埋戻し部分の透水性を高くし、地表残留水などを管に流入し易くするために入る資材。



優秀賞を受賞した石松氏

■ 林業

- ・北九州市では、間伐材をはじめとする未利用材の発電利用を推進するため、「北九州地域木質バイオマス利用推進会」を令和3年3月に設立。5月には、再生可能エネルギーの固定買取制度に基づく「木質バイオマス由来証明書」を発行できる林業事業体を2団体認定。これらの事業体が出荷する間伐材は、この証明により買取価格が高くなることから、今後、発電への利用促進による森林整備の推進に期待。
- ・北九州市では、周辺の森林へ拡大する放置竹林を減らすため、2年度から森林環境譲与税を活用した樹種転換の取組を実施。3年度は約5haをクヌギ林に転換。公益的機能の持続的な発揮に期待。
- ・岡垣町高倉地区では、平成29年度から治山事業を活用し、竹の侵入により竹林化した保安林約6haを広葉樹林に転換。保安林機能の回復や森林の再生を面的に進めるモデル地区になることを期待。
- ・平尾台では、山林への延焼防止のため、野焼きのシーズン前に固定防火線※の草刈りを実施。4年2月の野焼きでは、予定地区の外への延焼があったものの、防火線が早期鎮火に寄与。防火線の効果が再認識され、今後もしっかりと維持管理に取り組む。
- ・令和2年7月豪雨により、北九州市立貫小学校学童保育施設の裏山で山腹崩壊が発生。施設への土砂流出を防止するため、3年度に緑化を伴う復旧工事を実施し、安全な施設運営に寄与。

※固定防火線：山林への延焼防止のため、あらかじめ林縁や林内の灌木類を除去した帶状の無立木地。

地域のトピック

○「合馬たけのこ」の新たな生産者の育成が始動

- ・北九州市の特産物として名高い「合馬たけのこ」の産地では高齢化が進み、新たな生産者の育成が不可欠。このため、3年8月に生産者、JA北九、行政などが連携し、「『合馬たけのこ』生産者育成サポートセンター」を設立。
- ・センターでは、「合馬たけのこ」を生産する高い技術力を持ち、経験が豊富な生産者を「育成マイスター」に登録し、合馬地区内外から参加した研修生に技術を伝授。
- ・さらに、生産者の所有竹林の情報をまとめた台帳や、新しい知見を取り入れた生産マニュアルの作成に着手。
- ・「合馬たけのこ」の生産量を、10年後も同程度に維持することを目指す。



伐倒時のロープワークを習う研修生

4 飯塚農林事務所管内

■ 農業

- ・鞍手町では、地域の担い手農家3戸が、「農地の大区画化・集約化推進事業」を活用し、畦畔除去による大区画化（約7.6ha）を実施し、作業効率が向上。また、鞍手町の2法人は、令和2年度から国の「スマート農業加速化実証プロジェクト」に参画。米、麦、大豆生産におけるスマート農業機械の実証に取り組み、3年度は無人ロボットトラクタや無人ロボット田植機の導入により、労働時間が地域の一般的な方法に比べ3割から4割削減できることを実証。
- ・飯塚市地方卸売市場が、3年5月に同市有安の庄内工業団地で開場。市場全体を閉鎖型にすることで温度や衛生管理が向上。筑豊地域唯一の青果及び花きの卸売市場であり、生鮮食料品及び花き流通の基幹施設として大きな期待。
- ・筑豊地域花き生産者連絡協議会は、平成16年から県庁ロビーでの飾花に取り組み、3年10月に300回を達成。協議会会長が知事を表敬訪問し、感謝状を受領。
- ・田川市でアスター^{さのたかゆき}やハーブ類を生産している有限会社グロウテック（代表取締役佐野孝之氏）が、「令和3年度全国優良経営体表彰」働き方改革部門で全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞。アイデアポストの設置や改善の見える化による働く意欲の向上、生產品目が増えすることで複雑化する多様な作業を誰もができるような仕組の構築といった「働きやすい職場づくり」を実践した経営が高く評価。
- ・赤村の船原務^{ふなはらつとむ}氏が、第57回福岡県肉畜共進会肉豚の部において、農林水産大臣賞を受賞。4頭中3頭が極上との評価は、県肉畜共進会史上初の快挙。

地域のトピック

○ (株)あいば農園（鞍手町）が全国麦作共励会（農家の部）で農林水産大臣賞を受賞

- ・株式会社あいば農園（代表取締役 相葉富雄氏）が令和3年度全国麦作共励会（農家の部）において農林水産大臣賞を受賞。
- ・あいば農園は、麦類24ha、水稻15ha、大豆26haを作付けする県内有数の大規模経営体であり、麦の作付品種は、小麦のちくしW2号（ラー麦）とチクゴイズミ、大麦のはるか二条の3品種。
- ・排水対策の徹底や、その年の気温・降水量に応じた管理作業の実施、赤かび病の適期防除、雑草種子の混入防止に努めた結果、3年産の10a当たりの収量は、ちくしW2号550kg(467kg)、チクゴイズミ456kg(341kg)、はるか二条593kg(468kg)と、JAの平均収量を大幅に上回る水準を実現したことが評価。

※（ ）はJA直鞍管内の平均収量



農林水産大臣賞を受賞した相葉氏

■ 林業

- ・添田町の有限責任事業組合ローカルズ 55 は、林業成長産業化総合対策補助金を活用し「丸ごと大径木の挽く挽く（わくわく）使おう大きな木」プロジェクトを開始。大径木を利用した板倉ユニットハウス^{※1}の展示会を開催。大規模な製材工場では取扱いが難しい大径木を活かした、地方の製材所ならではの建築資材の開発を目指す。
- ・管内 15 市町村の全てで、森林経営管理制度に基づく意向調査を実施。また、10 市町村で森林整備の実施といった、森林環境譲与税を活用した取組が着実に進展。
- ・赤村では、森林環境譲与税を活用した木材利用の取組として、平成筑豊鉄道油須原駅を改装し、ギャラリーや鉄道作業体験室、西日本工業大学との共同研究室を新設。カフェやマルシェを定期的に開催し、地域活性化の拠点としても活用。
- ・「たんと木育ネットワーク^{※2}」と筑豊地区森林・林業推進協議会は、昨年度に続き「木育インストラクター養成講座」を北九州市の山田緑地で開催。県内外から 80 人が受講し、昨年度から累計で 155 人が木育インストラクターとして認定。参加者からは、「木育は大人でも楽しく、子供はとても盛り上がりそう」、「ハッとする学びが多かった」、「地域活動で実践していきたい」と高評価。
- ・稻築志耕館高校では、生徒が快適に学校生活を送れるよう、県有施設緑化事業で中庭スペースに四阿を併設した植栽を行い、「憩いの緑地空間」を創出。
- ・令和 3 年 8 月大雨災害により、管内では林道を中心に被害が発生。特に被害の大きかった嘉麻市、添田町、川崎町及び福智町は早期復旧に向け、林道災害復旧事業を実施。被災した全 14 か所で工事に着手。

※1 板倉ユニットハウス：柱と柱の間に板を落とし込む日本の伝統工法（板倉工法）で作る小型の建物。

※2 たんと木育ネットワーク：筑豊地区の木材関連事業体の有志による木育グループ。

地域のトピック

○ 添田小学校のふるさと学習で木育を取り入れた授業を実施

- ・町立添田小学校では、ふるさと学習の一環として「添田町の魅力アピール大作戦」と銘打ち、町の 83% を占める森林についての学習会を実施。
- ・5、6 年生 98 人を対象に、森林の働きや林業の歴史についての講座と併せて、スギの間伐材やセンダンを材料にした木工体験や英彦山での植林体験を実施。
- ・児童からは、「森林の大切さが良く分かった」と好評で、「添田町の良さをアピールしていきたい」という前向きな意見も聞かれた。



森林の働きについて学ぶ



間伐材を使ったイス作り



英彦山山頂付近での植林

5 筑後農林事務所管内

■ 農業

- JAみなみ筑後は、セルリーときゅうりの集出荷の効率化やコスト低減を図るため、集荷施設を瀬高選果場敷地内に集約して集荷を一元化するとともに、荷受け時間の短縮や出荷作業の省力化につながる新たな集出荷貯蔵施設を産地生産基盤パワーアップ事業を活用して整備。整備をきっかけに生産者の所得向上や規模拡大、新たな担い手の確保による産地規模の拡大を推進。
- JA柳川は「まめマヨ」に続く大豆の6次化商品となる「だいす3兄弟」を開発。大豆に、しょうゆバター、カレー、キャラメルシュガーの3種類の風味をつけたお菓子で、令和3年度の6次化商品コンクールにおいて福岡県知事賞を受賞。「大豆の味が生かされている」、「値頃感がある」と高評価。
- 八女市は、第75回全国茶品評会で、「玉露の部」と「普通煎茶4kgの部」で産地賞を受賞。玉露の部では21年連続、普通煎茶の部では初の受賞。
- 大牟田市の酪農家が、労働力の軽減や牛の採食促進による乳量増加、畜舎内の環境改善などを図るため、畜産DX事業を活用し、県内初となる餌寄せロボットを導入。
- 八女市星野村の「広内・上原地区の棚田」及び「鹿里地区の棚田」が、保全活動や地域振興の取組を高く評価され、農林水産省の「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に認定。

地域のトピック

○ 中園英治氏（八女市）が農事功績表彰で緑白綬有功章を受章

- 八女市の中園英治氏が、地域農業の発展に貢献した農業者を表彰する令和3年度農事功績表彰において、緑白綬有功章を受章。
- キク生産における施設の高度化や新品種・省力生産技術の導入により大規模雇用型経営を実践し、地域のモデルとなる収益性の高い経営を実現。
- 八女電照菊部会長や日本花き生産協会部会長といった役職を歴任。産地間連携の必要性を提唱し、八女市で「九州輪ギクサミット」を初めて開催したほか、全国の輪ギク産地との技術的な連携を進めるなど、全国の施設花きの発展に貢献。



緑白綬有功章を受章した中園氏（中央）

■ 林業

- ・筑後地区森林・林業推進協議会では、林業従事者の労働安全を確保するため、携帯電話が圏外でも緊急時の連絡が可能な通信機器を導入し、林業経営体での試験運用を開始。使用感や通信可能エリアなどを調査し、管内の林業経営体へ普及。今後、導入が進み、労働災害の減少につながることを期待。
- ・福岡・大川家具工業会では、家具の材料となる国産早生樹の「センダン」を普及するため、センダンの記念植樹を実施。八女市黒木町の水源地に140本を植樹。参加者からは「今後もセンダン植樹の輪を広げていきたい」との声。
- ・きのこを生産する株式会社秋香園(大木町)では、ぶなしめじの海外販路拡大を目的に、県の支援のもと、国、県、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)、専門家から成る支援体制を組織。輸出に向けた協議を実施し、令和4年度のGLOBALG. A. P. 取得を目指す。
- ・管内の林業・木材産業の流通体制の効率化を目指し組織された「八女地域材サプライチェーンマネジメント推進協議会」で、ICTを活用した情報共有の取組等をPRするホームページを作成。地域材利用の取組に共感する新たな企業が参画することで、地域材の流通促進に期待。

地域のトピック

○ スギのコンテナ苗の生産による再造林を促進

- ・福岡県八女森林組合では、拡大する主伐に対応した再造林が行えるよう、年間を通じて植栽が可能なスギコンテナ苗の生産に着手。普及員による生産講習会を行い、令和3年度、1万本の挿し付けを実施。約1年間の育苗期間を経て、5年春から森林組合の主伐地に順次植栽予定。
- ・また、同組合は「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」に基づく認定特定増殖事業者※の知事認定を県内で初めて取得。これにより少花粉で成長に優れた品種の母樹園の造成が可能となり、森林組合の主伐地へのコンテナ苗の安定供給に期待。

※認定特定増殖事業者：少花粉で成長に優れた品種の増殖を促進するため、知事が認定した事業者。



挿し付け作業



育苗中のスギコンテナ苗

6 行橋農林事務所管内

■ 農業

- ・みやこ町の農事組合法人「帆柱茶の里」は、一番茶を摘んだ後に収穫する二番茶の付加価値化と地域特産品の開発のため、和紅茶の生産・販売を本格的に開始。令和3年度に、売れる6次化商品推進事業を活用して新たなパッケージを作成。今後、和紅茶の品質の更なる向上と販路拡大を目指す。
- ・行橋市の辻垣・道場寺・高瀬地区は、平成29年度から経営体育成基盤整備事業により、ほ場整備工事に着手。ほ場の大区画化と合わせ、農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積・集約化を推進。また、県単事業による水田農業機械導入により生産コストの削減、米・麦・大豆の生産性が向上。
- ・県では、新規園芸農家の確保に向けて市町が主催する説明会を30年度から支援。3年度までに100人が、新たにケイトウ、夏秋なす、県が開発したキウイフルーツの品種「甘うい」の栽培を開始。中でも、夏秋なすは、栽培技術習得に向けた重点指導やパッケージセンターの利用を推進した結果、作付面積が3年前と比べて1.3倍の2.1haに拡大。JA福岡京築夏秋なす部会は県内最大の夏秋なす部会に成長。
- ・人手が不足している園芸農家に対し、NPO法人セルプセンター福岡の共同受注窓口を通じた福祉施設への農作業の外部委託を支援。渋柿の袋詰めやレタスの定植といった作業を円滑に行えるよう手順書を作成し、農福連携の取組を推進。

地域のトピック

○ 先進的な施設園芸農業の実践で地域をけん引

- ・豊前市の株式会社エフワイアグリは、ベビーリーフやアスパラガスといった野菜を栽培。経営面積は10haで管内の経営体では最大の施設規模。産地生産基盤パワーアップ事業を活用し、ベビーリーフを栽培する低コスト耐候性ハウス121棟を整備。
- ・令和元年に京築地域では初となるGLOBALG.A.P.を取得し、取引先へのPRと作業環境の改善・整備を強化。2年にはベビーリーフで有機JAS認証を取得し、持続可能な農業を実践。
- ・スマートフォンで散水作業やハウス室温を管理できる環境制御機器といった先進的な設備を積極的に導入。
- ・農地の借入または、取得によりハウスを整備し、耕作放棄地発生を防止。また、自社とあわせ地元生産者のアスパラガスの仕入れ販売を実施し、地域をけん引。



ベビーリーフの収穫



低コスト耐候性ハウス

■ 林業

- ・令和3年度、福岡県京築地域、大分県北部地域の森林組合や原木市場、木材商社、行政が連携し、中津港を拠点にした中国への原木輸出を開始。中国経済の減速や船賃高騰などの厳しい情勢にもかかわらず、目標量の6,000 m³を達成。今後も連携した取組の継続を確認。
- ・築上町大字高塚地区の治山施設の老朽化が進行していることから、施設の機能回復・強化に向け、3年度から個別施設計画に基づく施設の長寿命化対策に着手し、調査委託設計が完了。
- ・林業労働災害の防止を目的に、行橋労働基準監督署と合同で伐採・搬出現場の安全パトロールを実施。パトロール結果について、良い実施内容や改善すべき点を洗い出し、林業事業体へ周知。
- ・京都森林研究グループが、行橋高校環境緑地科2年生を対象に林業体験実習を実施。高校生が、チェンソーを使った丸太輪切りや立木の伐倒作業、林業機械操作に挑戦。将来、地域林業の担い手になることを期待。
- ・「京築のヒノキと暮らすプロジェクト（通称：ちくらす）※」の取組の一環として、3年11月に、京築ヒノキと小倉織を用いたクリスマスオーナメントを小倉井筒屋にてチャリティー販売。この売上をもとに、上毛町にて早生樹センダンの記念植樹会を開催。また、学生との合同コンペから生まれた「SDGsベンチ」を製作。築上町庁舎ロビーや行橋市立図書館に設置し、京築ヒノキの普及啓発を推進。さらに、京築ヒノキを用いたランチボックスを県庁11階の「福岡よかもんカフェ」が導入するにあたり、デザインや設計、材料調達に協力。

※京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）：平成27年度から開始した京築地区森林・林業推進協議会と地元の大学等による産学官連携の取組。京築ヒノキの利用拡大を図るため、京築ヒノキの新たな活用方法を提案する活動を展開。

地域のトピック

○ 第4回チェーンソー競技会で伐倒訓練装置を活用した安全指導を実施

- ・チェーンソーによる伐倒作業の安全技術・安全意識の向上を目的として、令和3年度で4回目となる「行橋農林事務所管内林業労働安全大会チェーンソー競技会」がみやこ町にて開催。
- ・伐倒訓練装置を使った伐倒競技を初めて実施。容易に競技現場が設定でき、より安全に、多人数での実施が可能に。
- ・講師による伐倒作業の安全指導を併せて実施。



伐倒訓練装置による伐倒



管内森林組合から選手9名が出場



講師による安全指導